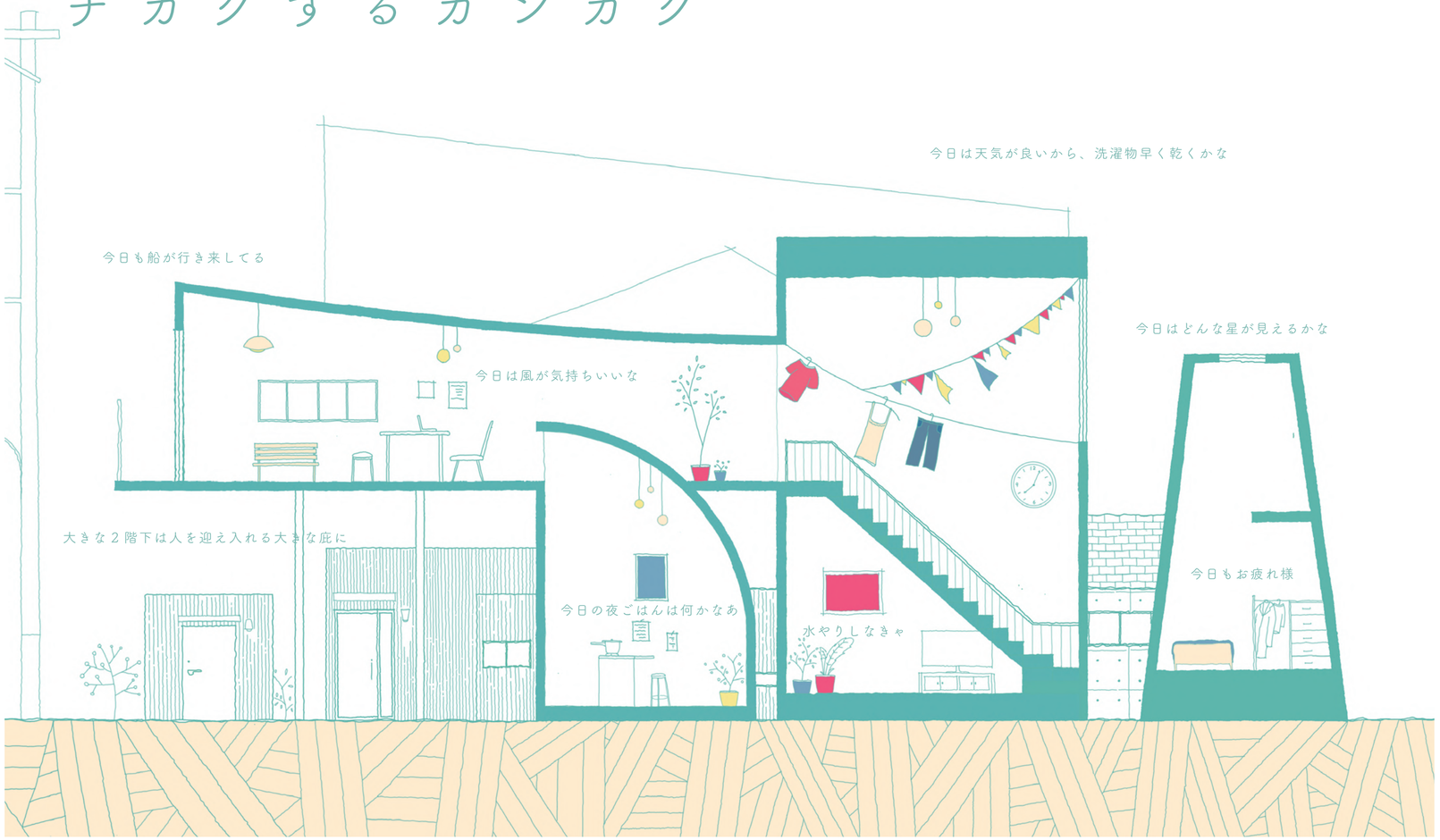
チカクするカンカク



配置図兼 1F 平面図　S=1:125

1. 失われた豪華さの感覚　背景

イギリスで良く晴れた日を「豪華な日」と言うように、日本の天気予報では雨の日を悪い日と言いません。それは農家にとって、雨は恵みであり「豪華な雨」だからです。人々はかつて自然の現象に「豪華さ」を見出してきました。しかし、資本主義社会によって人々は豪華さを物の所有に転換させてしまったのではないでしょうか。

2. 魔法瓶化する住宅　問題提起

近年、多くの住宅は環境性能向上を目的として高気密・高断熱の外壁で覆われ、プライバシーの観点から縁側や土間といった他者を迎え入れる空間は減少しています。魔法瓶のようになった住宅は一見快適で安全に見えます。しかし、その内部では人々の感覚は外部から切り離され、知覚の乏しい世界に閉じ込められてしまったのではないでしょうか。

3. 知覚に見出す豪華さ　提案

かつてある建築家が「子供たちは鳥の歌声も聴き分けられなくなった」と嘆いたように、現代の人々は自然や空間に潜む微細な現象を知覚することが困難になったのではないでしょうか。そこで私は日常の現象のなかにある些細な喜びや発見を知覚することを豪華さであると捉え、人の知覚を拡張する住宅を提案します。

4. 知覚を促す場ー元宇品町　敷地

広島県広島市元宇品町は瀬戸内海国立公園の特別地域に指定されるほか、戦争遺構が残るなどしてＧ７が行われた場でもあります。選定敷地は西側に瀬戸内海が拡がり、愛媛や江田島を往来する客船が通ります。また東側には原生林が控えるなど自然の移ろいや揺らぎなど様々な現象が散見されます。様々な歴史や現象があるこの場に知覚を拡張する豪華な家を設計します。

5. 知覚のヴォイド　手法

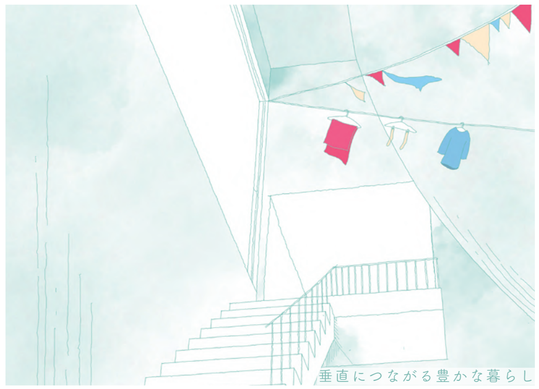
人の知覚を拡張する４つのヴォイドを建築に絡まるようにして配置します。この４つのヴォイドは現象を知覚させるための装置でもありますが、同時に空間同士を繋ぐ役割も担います。ヴォイドによる現象の知覚化によって空間体験をより豪華なものとすることができるのではないでしょうか。

「通風ヴォイド」
良好な風を室内に送り届けつつ、展望台の役割を果たすヴォイド

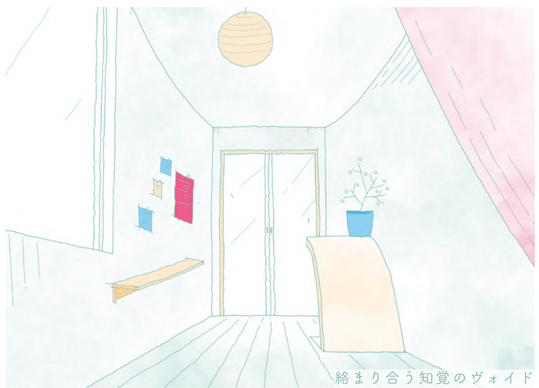
「集排熱ヴォイド」
室内の温熱環境を整える。煙突効果によって排熱し、温度を調節するヴォイド

「採光ヴォイド」
室内に適度に採光を供給しつつ、キッチン上部にあり、「献立お知らせヴォイド」でもある

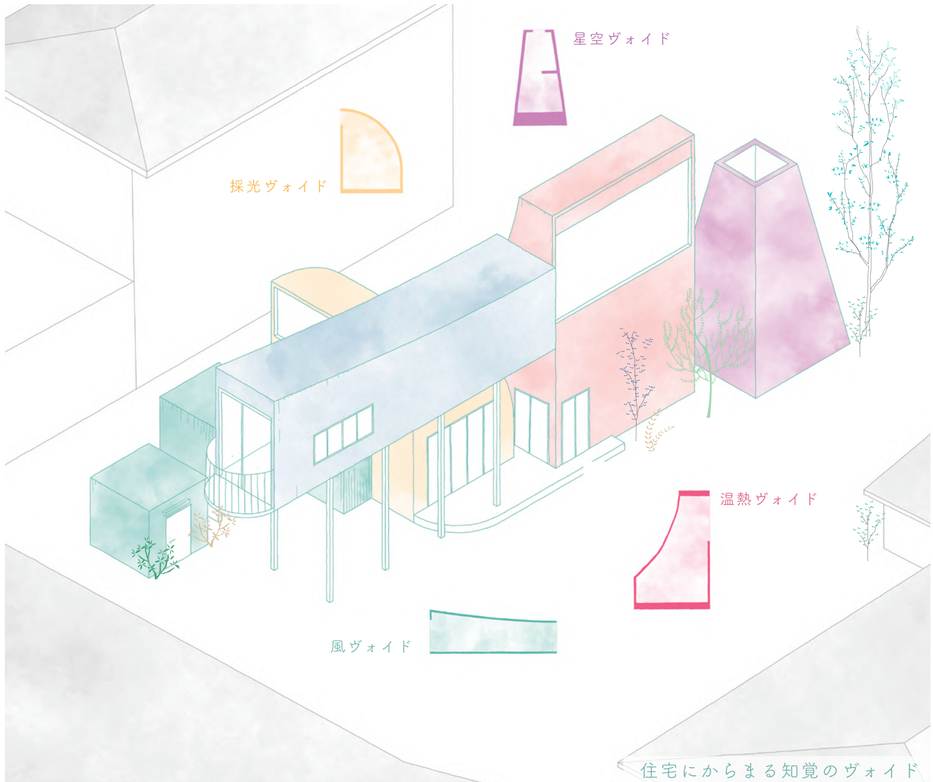
「星空ヴォイド」
星を眺め、一日の疲れを癒す。自分の不安などちっぽけだと感じるヴォイド



垂直につながる豊かな暮らし



絡まり合う知覚のヴォイド



住宅にからまる知覚のヴォイド